

令和2年度 島根県立盲学校 学校評価報告書

重点目標	No.	担当	各学部、分掌等の目標	評価(点数)	自己評価と次年度に向けた改善策	学校関係者評価	評議員の意見及び改善策等
				平均			
学力保障 ・ねらいを明確にした、授業改善を進める。 ・研修等を通して、専門性の維持向上を図る。 ・新学習指導要領への対応を進める。	1	小中普	集団での学習を保障すると共に、対話的で深い学びを実現できるよう授業改善を図る。	3.5	研究の日を中心に「対話的で深い学び」について各グループで検討をし、授業公開・研究の日を使った研究協議を行うことで授業改善につながった。引き続き取り組みたい。合同学習も感染対策に配慮しながら行った。理療科教員の経験談について学部研修を行った。すぐに実践に生かすことができた。	A	・視覚障がいのある児童生徒にとって、ipadを使い易くするためにどのような工夫をしているか。 →ipadには、最初から視覚障がい者が使いやすいための機能が入っている。実際の生徒の学習場面では、宿題のドリルなどを画面上で拡大して読んだりしている。また読み上げ機能など、さまざまなアプリケーションがあるので活用できると考えられる。また、全盲者にはipadよりパソコンのほうが使いやすい場合もある。 ・今年度は新型コロナウイルスの影響により、生徒の生活面でもこれまでの生活とは色んな面で変わってしまっているが、盲学校ではどのように取り組んでいるか。 →視覚障がい者は移動の際に手摺りに触れる必要があるため、校内では毎日手摺りの消毒作業を行っている。職員全員に携帯用の手指消毒剤を配布している。また、生徒が歩行訓練や買い物などの学習に出かける際は、マスクを着用し、必要に応じて除菌シートを持ち歩いている。 ・コロナの影響で臨時休校があった中でも十分に学力がついたと思う。理療科についても一定ラインまで学習の達成ができてきていると思う。 →今後もコロナウイルス対策を実施しながら、ねらいを明確にした授業改善を進め、学力保障に努めたい。
	2	理療科	教科の指導法について理療科全体で検討し、理療の専門性の向上を図る。	3.4	概ね予定どおり実施し、特に灸灸技の指導法を共有することができた。デジジ編集ソフトの研修は後日実施予定。今後も教科研修会や公開授業を通して専門性や授業力の向上に努めたい。		
	3	地域支援部	相談対象者の実態とニーズを的確に把握し、それに基づいた相談や支援活動を行う。	3.3	来年度週1日は相談を入れない日を設け、担当者相互でケース検討、相談記録・準備、情報交換等を行う。部内での「相談の会」以外に、職員全体に呼びかけ「ケース検討会」を行い、多角的に支援を考えることができた。来年度以降も継続していきたい。		
	4	教務部	新学習指導要領を周知し、授業力向上に役立てる。	3.3	新学習指導要領における学習評価や指導要録の変更等について情報提供を行った。引き続き情報提供するとともに、次年度は高等部における学習評価について検討を進めていきたい。		
	5	研究部	各学部でねらいを明確化した研究主題のもと、指導支援の方法・工夫を共有し、日々の実践、公開授業を通して、授業力の向上を図る。	3.6	校内研究は、各グループがサブテーマの下、実践に重きをおいて取り組み、児童生徒に必要な資質能力について思考し、深めることができた。また、公開授業を行ったことで、授業の構成を見直し、客観的意見を得たことで授業改善につなげることができた。次年度からは、新たな研究主題で実践を行う。共通理解の上で研究が進められるよう計画実施していきたい。		
	6	生徒指導部	児童生徒の意見や情報を収集するとともに、それを学校全体で共有し、必要な支援を考える。	3.7	得られた情報の内容に沿って、担任や学部、または管理職や教職員に情報を伝え共有し、協働して支援することが概ねできたと感じている。来年度は、情報共有の方法や伝達のタイミング等をより考えながら、児童生徒が少しでも気持ちよく学校生活が送れるように継続して行いたい。		
	7	生徒指導部	児童生徒の個々のニーズに合った資料を提供し、利用の促進を図る。	3.5	今年度から図書館を2ヶ所に分け、児童生徒の皆さんがより利用しやすい環境を整えることができた。結果として、特に理療科生徒の第2図書館の利用回数が増えた。来年度も児童生徒のニーズに合った図書館づくりに努めていきたい。		
	8	生徒指導部	いじめの未然防止および早期発見に努め、児童生徒が安心して学校生活が送れるようにする。	3.6	担任、いじめ防止委員の先生方の協力のもと、学期ごとにアンケートおよび面談を実施することができた。来年度も形式的にならず、その都度、丁寧な実施を心がけたい。合わせて、情報共有の方法や伝達のタイミング等などについて、より効果的な方法を考えていきたい。		
	9	保健部	児童生徒の実態に応じて、がん教育や性に関する指導についての情報提供や指導の協力を行う。	3.2	児童生徒の実態に合わせて、担任、寄宿舎指導員とからだに関する情報共有や指導の協力を行うことができた。しかし目標としていたことについては、コロナ対策に追われ出来なかった。来年度は、がん教育については教科との連携を考えて行いたい。楽しみの食に関しては、クイズや郷土食等工夫を考え、児童生徒が興味関心を高められるようにしていきたい。		
	10	寮務部	研修を企画・実施し、児童・生徒の実態に応じた生活支援ができるようにする。	3.9	実態に応じた生活支援に関する研修や学校内の講師を招いての研修会を2回実施し、具体的な支援方法を研修することができた。今後も継続していきたい。		
進路保障 ・人間関係力育成のための取り組みを進める。 ・キャリア教育を充実する。 ・職場開拓を進め、福祉施設との連携を強化する。	11	小中普	進んで社会参加をする意欲や能力、主体的に進路選択をする力の育成を図る。	3.4	キャリアパスポート(出前講座)について研修を行い実践に役立てた。今年度の取組を振り返り、次年度につなげたい。校外学習については、コロナの影響で例年ほどは計画できなかった。職場体験・見学、現場実習については、各生徒ごとに保護者と共有しながら効果的な計画ができた。	A	・理療科の新型コロナウイルスの感染対策は、現在どのようになっているか。治療院は、対策はすべて自費で行っている。治療院の患者数が以前より減少している。 →外来患者には、マスク着用と手指消毒と検温を実施し、腋窩体温が37.3℃以上の場合は断っている。実習室内ではベッド間隔を空け、室内を換気している。今年度から使い捨てシート、ビニール表皮の枕、ステンレス製ワゴンを使用している。施術後は手荷物カゴもすべて消毒を行い、毛布の洗濯も行っている。カーテンも抗菌仕様に変えた。施術は施術者の指が直接患者の表皮に触れるが、手指消毒の徹底をすることで実習を行っている。 ・視覚障がい者で、家で治療院をしている人には、何をどこまでして良いのか分からないと思う。また、鍼灸マッサージ師会でも研修会などの開催に迷うことがある。盲学校としてこれから卒業する人や、既に卒業している人へのサポートをしてほしい。 ・進路先の決定にむけていろいろな苦勞があったと思うが、それぞれ希望の進路先へ進むことができている。 →今後も人間関係力育成のための取り組みを進め、進路保障に努めたい。
	12	理療科	患者とのよりよい人間関係を構築できるよう、コミュニケーション学習を実施する。	3.5	グループ活動を取り入れ、教職員アンケートの結果も参考にしながら理想の施術者について考える学習を行った。次年度も合同授業によりコミュニケーション力の向上を図りたい。		
	13	地域支援部	継続教育相談つばさ・ひよこの利用者や成人の相談者が、学校見学・体験をとおして、本校の教育について知り、進路選択の参考となるようにする。	3.6	校内や地域の学校の協力を得て、学校見学等を実施し、進路選択につなげた。必要に応じ、今後も実施していきたい。		
	14	進路指導部	進路開拓パンフレットの活用を推進し、事業所(福祉サービス事業所を含む)と相談・連携を強化することで、本校の理解を進めたり、進路開拓を進めたりする。	3.7	コロナのため、進路開拓パンフレットを配布できる機会が少なく、理解につなげることは難しかった。一方、進路だよりを通して保護者や児童生徒に向けた情報提供に集中できた。また、電話によるアフターケアや連絡調整に心がけ、関係機関との連携を図った。次年度は、パンフレットを郵送することも視野に入れて、進路開拓や関係機関との連携等に取り組みたい。		
	15	進路指導部	進路実現に向けた児童生徒・保護者のニーズを把握し、そのニーズに応じた進路相談や情報提供の充実を図り、計画的な進路学習を進める。	3.6	進路希望調査や進路面談を通して、一人一人のニーズを把握することができた。見学・体験・実習などの問い合わせや日程調整は進路指導部で行い、具体的な打ち合わせは担任で行った。次年度は、卒業予定者数は少ないが、キャリアパスポートの充実や見学・体験の計画的な実施等を通して、1・2年生から進路に向けた意識の底上げを図ってきたい。		
	16	生徒指導部	体育祭、学園祭の内容について、交流活動が増えるように工夫し、人間関係力の育成に努める。	3.3	コロナ禍の影響で外部の方との交流こそできなかったが、生徒会を中心に「できること」は何か、どのような形式かを考えて、校内の児童生徒同士の交流や協力を中心に実施することができた。来年度も状況を見ながら、安全で有意義な学校行事を考えていきたい。		
	17	寮務部	舎生の実態に応じて生活力を高める実践を行い、社会参加と卒後の自立を図る。	3.6	調理活動や外出活動を実態に応じて実施した。来年度も、舎生の実態に応じて生活力を高める実践を行い、社会参加と卒後の自立を図る活動を継続していきたい。		
地域貢献 ・センター的機能を一層充実させる。 ・関係機関と協働し、ネットワークを強化する。 ・障がいについての理解啓発活動を進める。	18	小中普	専門性を発揮し、交流及び共同学習、理解・啓発活動の充実を図る。	3.5	交流については2学期から例年通りおこなうことができた。また、オンライン交流という新しい形の交流にも取り組んだ。理解啓発が進む内容も工夫できた。今後の新しい交流の方法を模索していきたい。教育相談への同行はできなかったが、出前授業を担当した。地域資源(講師など)の活用については今年度はできなかった。	B	・新型コロナウイルスの影響があったが、オンラインの活用をどのように行ったか。 →広島中央特別支援学校とオンライン交流を行った。今年度は、職員の研修会をほほりモートで行っている。県立大学の学校見学はipadで校内を撮影しながら様子を説明する形のオンライン開催を行った。また、視覚障がい教育を語る会は、来校の参加者とりモート参加者の両方の参加方法で実施した。 ・今年度から浜田市、益田市で3歳児眼科検診が始まった。来年度には県全域で実施されていくのではないかとと思う。盲学校主催の講演会を行ってきた成果だと思ふ。 ・来年度幼稚部が設置されるが、幼児の就学先の選択のために早期から密に相談できることは、大切だと思ふ。 ・弱視学級の担当教員や市の担当者、盲学校の教員も一定期間で転動してしまふ。エキスパートの中堅職員から次の職員が業務を引き継いで、児童生徒が困らないように継続的な支援が「統一的に」されていくように人事を考慮してほしい。 ・視覚障がいの教員が公民館で、地域の方や校区の小中学校教員と話し合いをした。視覚障がい者の当事者の方と直接話す機会は良い経験であった。また、視覚障がいスポーツの体験もみんなにしてほしいと思ふ。 ・地域貢献は、コロナの影響でオンライン開催になるなど思うような活動ができなかったと思ふ。 →今後も継続して、関係機関との協働し、理解・啓発活動を進め、地域貢献に努めたい。
	19	理療科	理療教育の理解・啓発を図るために、学習活動内容を積極的に発信する。	3.3	概ね予定どおり実施したが、新型コロナウイルス感染防止のため地域交流あん摩体験会は未実施。地域における理療教育の理解・啓発を図るために次年度は是非実施したい。		
	20	地域支援部	島根ビジョンネットワーク等の関係機関と協働し、それぞれの専門性や機能をいかした相談や支援活動を推進する。	3.6	職員へのメールや朝礼、校内児童生徒、継続教育相談利用者への案内により多くの参加があった。今後も継続したい。		
	21	総務部	学校紹介スライドを作成し、視覚障がい教育の理解啓発につなげる。	3.6	学校紹介スライドを作成したが、新型コロナウイルス感染症対応のため、多くの研修会や校外での活動が中止となり、活用場が少なかった。本校教職員に視聴機会を確保する。来年度は、差し替える写真が確保できていないため、今年度のもを継続して利用し、卒業生には写真等の使用の了承を依頼したい。幼稚部については、設置の紹介をして、新たなスライドの準備期間としたい。		
	22	総務部	学部や他の分掌等と連携し、見やすいホームページにし、学校行事及びその他の活動を掲載する。	3.3	協議の上、レイアウト変更を行った。行事等の中止が相次ぎ、更新機会が少なかった。また、教職員に閲覧してもらえるようホームページ更新の情報をメール等で周知していきたい。		
	23	教務部	図書館展示スペースを活用できるように整備する。	3.5	図書館に視覚補助具を展示するコーナーを整備した。校外学習等の活動をとおして来校者に紹介し、引き続き活用しやすいよう整備していきたい。		
	24	研究部	弱視学級設置校や関係機関、本校教職員を対象に、視覚障がい教育の理解と専門性の向上のための研修会を実施する。	3.6	視覚障害教育公開研修会(早期支援研修会)では多様な職種の外部参加者とともに学ぶことができた。また、校内研修会はオンラインという新たな研修の形で実施した。専向研は講師を複数体制とし、後期では研修のねらいを明確化した。次年度からも状況に応じて研修の方法を検討し、ねらいを明確化してセンター的機能の充実を図りたい。		
	25	保健部	関係機関が開催する研修会等で得た情報を共有し活用できるように、コーディネーターと連携し校内に周知する。	3.5	オンライン開催された研修会「新型コロナウイルス感染症対策についての留意点」に参加した際には、全職員にメールで周知し、学校生活における対策のポイントを共有した。ただ、今年度は、研修が少なく目標達成に向けた取り組み自体が難しかった。年度途中で目標を見直すべきだった。		
	26	事務部	経費削減意識を高めながら、一方で校内の安全や教職員の健康を考慮し、快適な職場環境のために適切な予算執行を行う。	3.6	限られた予算の中で、緊急性のあるもの、必要性のあるもの(コロナ対策等)に優先順位を付けて対応した。各学校活動経費についても、担当者に具体的予算額を示すことで経費削減の意識が根付くよう努めた。今後も、限られた予算の中で、現場の緊急性・必要性を考慮しながら適正に対応したい。		
	27	事務部	学校の窓口として、外来者への受付業務、電話対応など、心配りのある対応を行う。	3.4	電話応対や受付窓口での業務は、学校の第一印象を決める重要なものであり、県民にとっては学校全体の評価に関わることであるので、このことを十分に認識し、相手の立場に立った丁寧な対応を心がけた。今後も相手に好感を持たれる対応を行いたい。		

注【評価基準】A(そう思う)、B(まあそう思う)、C(あまりそう思わない)、D(そう思わない)、E(わからない) 【評価点数】A評価の数×4、B評価の数×3、C評価の数×2、D評価の数×1の合計を、A～D評価の合計数で除したものの。ただしE評価は除外した。 【学校評議員評価基準】A(満足)、B(ほぼ満足)、C(改善の必要がある)